

平成 28 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	北広島町立芸北中学校		
学校長氏名	山田 正彦	栄養教諭氏名	松村 歌織
職員数	14 名	児童・生徒数	59 名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

今年度より栄養教諭が配置となり、今まで学校の食育の推進は、養護教諭が給食時間を中心に実施してきた。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

○望ましい食事の仕方や食習慣を理解し、自らの健康の保持増進をしようとする生徒の育成。

- ・食事のマナーを意識して食事ができる生徒 90%以上
- ・食事作りに関わる生徒 60%以上

3 食育の目標に対する具体的な取組**【取組 1】（テーマ） 教科等と関連させた取組（第 2 学年）**

- ・今年度は、北広島ふるさと夢プロジェクトの一環として、北広島の「夢プロ給食」給食メニューコンテストが実施され、全校で応募するよう取り組んだ。
特に、第 2 学年では、家庭科の授業としてメニュー作成に取り組んだ。
- ・自分の食生活を見直し、望ましい食習慣の形成することや食事を通して好ましい人間関係や社会性をはぐくむことを目的として、挑戦科「よりよい学校生活」と国語科を関連付け、第 2 学年で授業を行った。

【取組 2】（テーマ） ランチルームでの取組

- ・毎日の給食を生きた教材として活用するため、食材やメニューについて、生徒会の担当委員会の生徒が説明を行ったり、クイズを取り入れ興味を引いたりするよう取り組んだ。
- ・全職員で配膳指導・マナー指導を行っている。

【取組 3】（テーマ） 給食内容の充実

- ・今まで、自校給食であったが今年度から給食センターでの調理となった。思春期にある生徒が、積極的に食べたいという気持ちをもったり「食」に興味をもったりできるような給食内容になるよう取り組んだ。
- ・リクエスト給食の実施。第 3 学年にアンケートをとり、3 学期の給食に取り入れた。どのメニューがリクエストなのかを分かるように、掲示の工夫をした。アンケートをとる時には給食の思い出も書いてもらい、掲示をしたり食育だよりで紹介したりした。
- ・鍋給食の実施。1・2 年が行事で欠食する時、3 年生のみで鍋給食を実施した。毎年恒例行事で楽し

みにしている3年生もおり、給食センターとなった今年度も引き続き実施した。

- ・バイキング給食の実施。料理を選択する力を身に付けること、調理員さんへの感謝の気持ちをあらわすこと、マナーを守った会食をすることを目的に、実施した。
- ・納入業者が島根県のため、広島県の食材が利用しにくいのが、できるだけ地場産物を活用できる方法を模索した。一貫校である県立加計高校芸北分校のりんごも利用することができた。

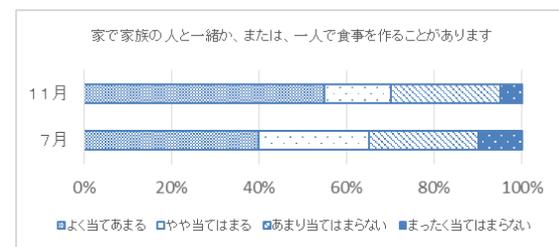
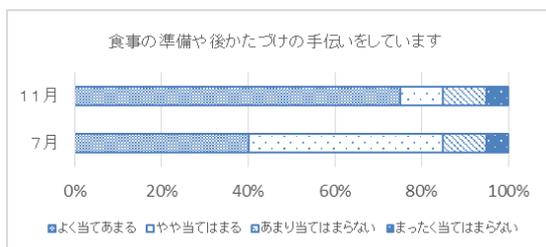
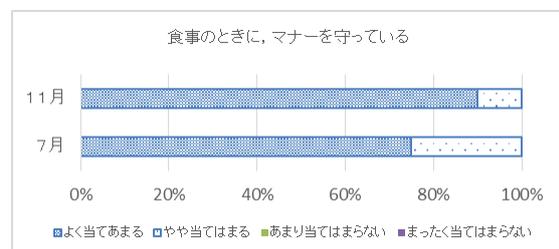
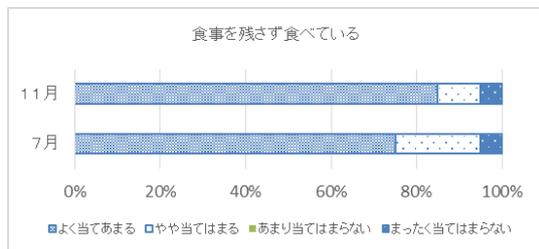
4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

- ・食育だよりには、ひろしま給食について北広島町でのメニューを紹介し、レシピを載せた。
- ・献立表は、各家庭で1ヶ月は掲示されているので、その裏面に、県教育委員会から配布されたレシピを印刷し、配布した。
- ・給食時間の指導資料で、100万食プロジェクトの趣旨の説明や、献立について紹介をした。

5 取組に対する成果と課題

【成果】

中学2年生に対するアンケート結果をみると、ランチルームでの継続的な指導により、マナーや食に関する意識の向上があったのではないかと考えられる。また、2年生は家庭科でも調理実習等を行う機会があり、連携して取組を行ったことが家庭での行動変容につながったと考えられる。



【課題】

- ・今年度は、2年生の授業に関わるが多かったので、来年度は各学年に関われるようにする。
- ・中学生の発達段階を考慮した指導を実施できるようにする。

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・各学年で食育に取り組めるよう、年間計画の見直しをする。